

マイホーム、それは偶然の出会いが重なってできたものだったなあと今でも感じています。また最初に出会ったのが LIV 設計室さんであり、設計から完成までなんの不安、不満もなく、とにかく楽しくて仕方なかったことは本当に幸せなことだったと思います。

まず私が家を建てようと思ったきっかけは、新築の知人の家に招かれたことでした。

高校からの旧友が集まる中、新築のお披露目のためにせっせと動き回る奥さん。とても大変そうでしたが、その中に見える笑顔がとても幸せそうに見えました。また、友人である旦那さんも、走り回る子供達に囲まれとても嬉しそうでした。今まで漠然と考えていたマイホームでしたが、その集まりの数週間後には土地を探し始めていました。そして「この辺に住みたいなあ」と思った場所、そこに偶然にも売り地があったのです。

「家を建てるならアメリカンな家」そういう夢は昔からありました。

毎年 1 回程、ディズニーランドに家族で行っていましたが、パレードや乗り物よりも建物や内装を見ることのほうが楽しみでした。

アメリカンな家でしっかりした建物を作りたい、しかし予算は限られているし、欠陥住宅となるのも怖い、それを解決するにはどうすればいいか、数ヶ月の間にインターネット、雑誌、専門書などから様々な情報を取り寄せ思案しました。そこで出た答えが「設計士さんに家造りをお願いしよう」ということだったのです。そして偶然にもインターネットで見つけたのが LIV 設計室さんでした。ホームページの中にある様々な建物や内装、それは私が「こんな家に住んでみたい」と思い描いていたそのものでした。「うわあ、素敵だなあ」と見ていると、なんと次の日に完成見学会があるとのこと。緊張しながら電話で LIV 設計室さんへ連絡を入れ、現場へ足を運びました。そこで初めて本格的なアメリカンのお宅を拝見したのです。そして今まで漠然と「素敵だなあ」と感じていた内装が「ドライウォール」という工法で造られているものだと、熱心に家造りのお話をしてくださった菊池さんから教えていただきました。

その後、私の担当となった君島様に半年以上にも渡り設計をしていただきました。「こんな外観の家を建てたい、こんな感じの間取りにしたい」素人ながら一生懸命に考えスケッチして君島様にお伝えしました。するとそれ以上に素敵なデザインと間取りのプラン図をお持ちになってくれました。

菊池さんの家造りに対する熱心な思い、君島様のとても素敵な家のデザイン、そして何よりも、お二人に共通する「お客様と家を造ることが楽しい、いい家

を造りたい」という姿勢が私の家造りへの様々な不安を消してくれました。

事務所で何回も打ち合わせをして細かい間取りを決めて行く中、私はとても驚いたことがありました。それは造作キッチンについてでした。

キッチンは買う物、写真などで見る素敵なキッチンは、あの形になるようにキットになって販売されている。そう思っていた私は

「キッチンを作る？システムキッチンを買って取り付けるのではないのですか？」と思わず聞いてしまいました。

すると君島様は笑いながら「はい、作るのですよ、キッチンを。どのようなデザインにしますか？どのようにもできますよ。カウンターを作ってもいいですね、天板はタイルにしましょうか？」と、ここでも様々な提案をしてくださいました。そしてここでも私がスケッチしたデザインを見事なまでに形にしてくださいました。

こんな形の家に住みたい、こんな感じのキッチンカウンターにしたい、そう思ったものが設計図に起こされ出来上がっていく。これは設計力だけではなく、一人一人のお客様に時間をたくさん使ってくれる LIV 設計室だからこそのできたものだと思っています。

また工事期間中は何度も現場へ足を運びましたが、工事に携わる方達、皆さんとても気さくでいい人ばかりでした。そしてこのような方達が私の家を造ってくれているのだと思うと、それは安心感へとつながりました。

住み始めてからは、家の断熱性に驚かされました。以前に住んでいた家より 1.5 倍の広さになり、リビングには大きな吹き抜けもあるというのに、エアコン一つで快適に過ごせてしまう、それなのに光熱費が以前の住まいよりもかからないのです。またドライウォールがもたらしてくれる空間、特に夜の間接照明と相まって作られる陰影は本当に心を和ませてくれました。

私が一番気に入っている場所、それは広い吹き抜けのあるリビングです。

ソファに寝転びながらシーリングファンの回る高い天井を見ていると、とても贅沢な空間だなあと感じます。また吹き抜けの窓から月が見えることがあるのですが、それがまた素敵なのです。

親戚や友人を招いた時、皆このリビングを見て「うわぁ」と感嘆の声をあげてくれました。印象的だったのはその中の一人の方が「遺跡みたいだね」と言ったことです。これもドライウォールが作り出す独特の雰囲気とデザインの賜物だと思います。

また、外で庭作りをしているとたくさんの人に声をかけられます。

「素敵な家ですね、作っている時から楽しみにしていましたよ」

「オシャレなお家ねえ、どこのメーカーさんなの？」

「この辺、夜暗かったけど、お宅が建って(吹き抜けの窓から光が漏れるため)明るくなったわ」

この辺りに住む方の人柄もあるのかも知れませんが、様々な人が私の家について言葉をかけてくれるのは、家のデザインと本格的なアメリカン住宅が素敵に見えるからだと思います。

最後に LIV 設計室さんと家造りに携わってくれた職人さん、ありきたりな言葉になってしましますが、本当にありがとうございました。

皆さんのおかげで一生に一度の家作りが最高の思い出となり財産となりました。これからも素敵な家を造り続けてください。